

第3回 第3次さっぽろ都市農業ビジョン策定検討会 委員意見要旨

1. さとらんどについての意見

〈数値目標の設定について〉

- ・さとらんどのイベント開催に対して、実績の28回に対し、目標設定は20回と下げている理由は何か。季節を問わず1年を通して農業を楽しめるイベントを企画すれば、大幅に目標値を下げる必要はないのではないか。
- ・冬もイベントを開催しているので、5月から9月までで20回と設定しているのは違和感がある。大きなイベントだけではなく、継続性のある市民が参加しやすい小さなイベントも重要である。

〈イベント開催について〉

- ・人を集めるイベントとして、勉強するだけでなく、楽しみながら農産物に触れられるような工夫が必要。

2. 食育に協力する農業者への支援

- ・農業者にとって、食育に時間を割くことは大変である。様々な機関から依頼され学校に出向く際は、ボランティアでやっていることが多いため、謝礼が発生すると行きやすい農家さんもある。
- ・農家さんの畑に直接学校バスで出向いて、農作業をしている様子を視察・観察させることが良いと思う。お金ではなくても、気持ちを伝えることが大切である。
- ・無償では今後に繋がらない可能性もあるので、皆が気持ちよく引き受けられるような仕組みづくりが大切である。

3. 地産地消の推進についての意見

〈地産地消について〉

- ・さっぽろとれたてっこの位置付けを変え、今後は地産地消を象徴するキャッチコピーとして普及させることは、とても良いと思う。
- ・多くの人が、普段買い物しているのはスーパーであり、札幌産農産物を見かけることは少ない。実際に買いたくても買えない状況である。

- ・地産地消や札幌産農産物の購買率を上げるためには、直売所や一部の店舗だけでなく、どんなエリアに住んでいても身近に札幌産農産物が販売されている環境を整えるべきである。

〈規格品外の農産物について〉

- ・規格外品の農産物を流通させたり、公共施設の食堂や学校給食などに活用することでフードロスを減らすことができる。さらに、生産者の支援もできるようなシステムづくりを地産地消の取組みの中に位置付けてほしい。

4. ビジョン策定を進めるうえでの連携についての意見

〈異業種との連携〉

- ・企業等と協力して農業に関するイベントを行う動きが出てきているため、札幌市農政部が介入し、繋ぎ役としてイベントを行ってほしい。

〈福祉施設との連携〉

- ・農福連携等の新しい取組みを進めるためには、福祉側に対し、日頃から農業者や農業団体とディスカッションをしていないと、新しい取組みをやってくれるかはわからない。関係性を築くため、橋渡しを行っていただくことが重要である。

〈農業者との連携〉

- ・札幌市農政部として、様々な支援をすることで農地をこれ以上減らさないということが感じられる。生産者のモニタリングを行うことは、アクションプランとして重要と考えるため、各地区の農業者に年1回の意見聴取を行うことを要望したい。

〈農業者への情報伝達〉

- ・あらゆる農業者支援が用意されていても、「情報が届かない」「わからない」という農業者が多いのが現状。国・道・市の情報を一元化し、農業者がアクセスしやすい仕組みを構築してほしい。

5. 都市型農業について

- ・市街化区域の農地保全について、例えば「200ha 維持」といった具体的な数値目標があると、札幌市のスタンスがより明確になる。
- ・「札幌ならでは」の強みが十分に伝わってこないため、例えば、雪をエネルギーとして活用するなど、雪国ならではの都市型農業の可能性をもっと打ち出せると良い。